

# 【ねがいはましては】

平成31年2月25日

KYOWA SCHOOL

第340号

「母心」

昨年、叔母の3回忌の際にあったことです。叔母方の関係の方で、幼少のころより面倒を見ていただいたというお母さんとその子どもたちがいました。お母様は最近離婚されたとかで、母親の手だけで子を養っているのだそうです。そこで何やら我が子の成績が芳しくないとのこと……。私が私塾を営んでいると叔父より伝わり、会食の席に声をかけられました。

「この子、恐ろしいほど成績が落ちたんです。」これだけ聞けば、そうか、かなり勉強嫌いで小学校時代から引きずっているんだな、くらいの予想はします。きっと学年では底辺をさまよっているに違いない……。その子は中学1年生の女の子です。母親のグチは続きます。「私の安い給料の中から高い月謝を使って、だいたいこの子から塾へ行きたいって言ったから生かしてやっているのに……。」感情はさらに高まっていきます。「この前の中間テストから、今回の期末テストで30番も落ちちゃったんです……。」「はー、なるほど。」と、私のこころの中。てっきり底辺のお話かなと思いきや、「20番からいっきに50番へ落ちちゃったんです。」「あれ？」と私のこころの中。すかさず言いました。「たいしたもんじゃないですか。」「いいえ、この子にはいい成績を取ってもらって進学してもらわなければならないんです。私が脳なしのバカで育てているんで……。」「あー、……。」「何を話したか詳細には覚えていないのですが、人生は成績だけではないこと、友人関係や家庭環境がやさしさや思いやりで包まれていることなど、私特有の持論をお話ししました。当のお子さんは何やら神妙な表情です。えっ、こんな人いたの。といった表情です。話は尽きず、ついに私は決め手となる一言を発します。「一番苦しんでいるのはお子さん本人です。そっと信じてあげることが、一番のお母さんがしてあげることだと思いますよ……。」すると、その中学1年生の少女の目からみるみるうちに大きな涙があふれ出てきました。お母さんは連発します。「本当に何もしなければいいんですね。」「その通りです。そっと見守ってあげることが、この子にとって一番のプレゼントになると思いますよ。よーし、やってやるぞって、一番燃えているのがこの子じゃないですか。どのくらい気を抜くとこんなことになるのか、いい経験をしたじゃないですか。その悔しい気持ちをくみ取ってあげるのがお母さんの仕事。今回をバネにしてきっと這い上がりますよ……。」

私自身、成績制度や順位制度には不満があります。しかし、現状から判断すると、その子は勝つ負けるの世界にどっぷりと足を踏み入れている状態です。勉強は楽しむものではなく、勝負の世界……。そして最も気持ちを理解してもらいたい母親から、初めて会ったどこの誰だか知らないおじさんに自分の恥を長々と語っている。しかも罵声を付け加えながら。ところがどっこい、私が一方的に子の味方をするものだから慌てている様子です。「なんて人なんだ。」きつとそう思っていたことと思います。

そんなこんなで、その家族との別れ際に、私はその少女に一言、「どうだい、元気出ただろ!」……。彼女は言いました。「はい。」私のとったガッツポーズを真似して返してくれました。ニコッと笑ってくれました。私はこころの中で「よかった……。」

ちょうどその日は、週末恒例のランチ学習です。生徒だけを教室に残し、やってきた法事。「ただいまー。」と帰ってきた私を「おかえりなさい。」と出迎えてくれます。もちろん私がいなくても彼らはそれぞれ自分のやらねばならないことを自ら探し出し取り組んでいました。さっそく、その土産話をさせてもらいました。

家族の中での一番の理解者は、なんといってもお母さんです。そのお母さんに理解してもらえない子のこころをご想像ください。つらいものです。「なぜ、なぜわかってくれないの……。」子はまだまだ成長期、親に返す言葉もすぐには見つかりません。「順位」という過酷な社会と真正面から対峙しています。下がったらどうしよう。落ちたらどうしようと、常におびえた感情が全身を包み込みます。

人は欲の固まりの生物です。何かにつけ、他人と比べたがります。自分が勝った、他人が勝った。そして浮かび上がる感情が、「あー、どうしたら楽に成績上げられるかな。」です。成績さえ上がればいいのですから、学びなどどうでもいいわけです。そして学校では休み時間となると、あちこちで塾談義が始まります。「私の言ってる塾ねー……。」

私のところでは、宿題なし、テストなし、命令なしです。ただそれだけで、「やったー」と、喜んでいらっしゃる方もいます。しかし、ここでの向かい方の理念や私の教育に対する考え方などを徐々に理解する内に、わかってくるようになります。命令される方が楽かもしれない……。今日はここをしなさい。今日の宿題はこれです。などと、自身がやることを前もって決め、指示してくれる方が「楽」だ。支持される方が楽だ症候群です。

お母様方の感情もそれに似ている部分があるように思います。口を出す方が楽だ、です。ついつい幼少時からの口出しが癖になっており、何かにつけ、声が出てしまう。それも圧倒的に褒め言葉ではなく……。

お子さんは日々成長します。体よりも心の成長は著しいものがあります。子がやがて巣立つときには、全てに近いことを自ら判断し、行動に移さなければなりません。黙って子の成長を、目を細めながら眺める勇気を学ばれることは必要なのかもしれません。先ほどの中学1年生の流した涙は、巣立ちに着々と近づいている証拠だったのですね。